

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 臓器特異的自己免疫疾患の病態解明による慢性炎症制御法の開発
2. 研究代表者： 松本 満（徳島大学疾患酵素学研究センター 教授）
3. 中間評価結果

(1) 研究課題の進捗状況と成果の見込みについて

○総合評価コメント：

本研究課題は、自己免疫疾患における慢性炎症の発生機序を明らかにすると共に、その知見に基づいて、自己免疫疾患における慢性炎症に対する新たな治療法を開発を目指している。そのための一つのアプローチとして、臓器特異的自己免疫疾患の原因遺伝子である Aire の機能解析を行い、Aire の付加的発現によって自己免疫病態の修復を試みる過程で、予想に反して Aire の過剰発現がヒトの難治性自己免疫疾患である多発性筋炎 (polymyositis) ときわめて類似した自己免疫病態をもたらすことを見出し、現在、ヒト多発性筋炎症例の臨床材料を用いて、同様なメカニズムが本症の発症・病態維持機序となっている可能性を調べる研究を進めると同時に、動物モデルを用いて自己免疫応答を制御するための新たな技術開発にも取り組んでいる。

しかし、現時点では臓器特異的自己免疫疾患の原因遺伝子である Aire が胸腺上皮細胞の成熟を介して自己・非自己の認識に関わっているとする自らの仮説を証明するには至っておらず、またこれまでにトランスジェニック技術を用いてさまざまなモデルマウスを作製しているが、その結果については偶然性によるところも否定できず、現状の実験手法では目標とする成果を得ることが困難と予想される。さらに、現時点では慢性炎症研究というよりは Aire 研究になっており、慢性炎症研究への方向性が薄い。従って、今後は研究の方向性を再修正することが期待されると共に、研究実施体制についても、免疫学・臨床の研究者との共同研究や大学院生の確保等による強化を図るべきである。